

ISSN 1343-7837

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第23集

高知県土佐山田町

須江上段遺跡松ノ本地区

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004.7

土佐山田町教育委員会

高知県土佐山田町

須江上段遺跡松ノ本地区

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004.7

土佐山田町教育委員会



序

土佐山田町は物部川の西岸に広がる田園地帯を占めており、古くから文化の栄えた地域です。北部の山裾部から長岡台地上、さらには香長平野にかけて多数の遺跡の所在が確認されています。これらの遺跡は過去の人々の生活の証であり、過去から現在への無言のメッセージです。このメッセージの中には先人達の培ってきた英知が込められており、現代に生きる我々は、未来へ向けて共有の財産として遺跡を継承しなければなりません。

しかしながら自然多きこの土佐山田町にも開発の波は押し寄せています。各種の開発工事とともに農業基盤整備事業も重要な施策として推し進められており、その規模は拡大の一途であります。農業という基幹産業の発展には欠かせない事業ではありますが、広範囲におよぶため遺跡が含まれることが多く、その保存には努力がはらわれているところです。

今回の山田北部県営圃場整備事業においても多数の遺跡が工区内に所在しており、特に須江上段遺跡の保存が困難であることから記録保存のための発掘調査を実施しました。調査の結果、弥生時代の住居跡や古代の建物跡が確認されました。

このような調査結果が、土佐の古代史の歴史像を具体的に提示できることを願ってやみません。本書の刊行にあたりましては、発掘調査及び整理作業等に際し色々とご指導、ご協力いただきました関係各位、並びに関係機関には厚くお礼申しあげます。

平成16年7月

土佐山田町教育委員会

教育長 原 初恵

例　　言

1. 本書は、土佐山田町須江地区における県営圃場整備事業に伴う須江上段遺跡の発掘調査報告書である。
2. 須江上段遺跡の所在地は、高知県香美郡土佐山田町須江字松の木他である。
3. 試掘調査は、平成2年11月26日～平成3年2月6日、発掘調査は、平成7年12月1日～平成8年3月29日に実施した。調査面積は1,800m²である。
4. 発掘調査は、高知県教育委員会の指導のもと土佐山田町教育委員会が主体となり実施した。
5. 本書の執筆・編集等は中山が行った。
6. 遺構についてはP（ピット状遺構）SK（土坑状遺構）SD（溝状遺構）SX（性格不明）で表示した。
7. 報告書作成にあたっては高知県教育委員会文化財課、（財）高知県文化財団埋蔵文化財センターの各調査員の方々からご協力、ご教示をいただいた。記して感謝の意を表したい。
8. 発掘調査にあたっては土佐山田町山田北部土地改良区、地元須江地区の方々にご協力、ご支援を頂いた。関係各位に厚くお礼申しあげます。
9. 発掘調査及び整理作業には下記の方々にご協力いただいた。

発掘作業員

佐々木龍男・小松一仁・池 宣宏・竹村幸宏・吉川徳子・中沢英子・岩瀬好子・山下厚子・
山崎政子・武内 環・藤村清子・井上静衛・門田安代・山中美代子・宮本幸子

整理作業員

松木富子・山中美代子・宮本幸子・井上博恵・白木由里・門田美和子・竹村延子・矢野 雅・
宮地佐枝・川村暉久・伊藤 仁・竹崎寛将・高橋加奈・宗石祥一・風間俊秀・山口 正

10. 当遺跡出土資料（95-39YSM2）は、土佐山田町教育委員会が保管している。

本文目次

第Ⅰ章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境	
1. 地理的環境.....	1
2. 歴史的環境.....	3
第Ⅱ章 調査に至る経過.....	7
1. 調査に至る経過	
2. 調査の方法	
第Ⅲ章 調査成果.....	9
(1) 竪穴式住居跡	
(2) 掘立柱建物跡	
(3) 土坑	
(4) 潟	
(5) ピット	
(6) 性格不明遺構	
(7) 包含層出土遺物	
第Ⅳ章 総括.....	27

写真図版目次

巻頭図版 須江上段遺跡周辺全景

- PL 1 I 区 遺構検出状況
- PL 2 I 区 遺構検出状況・遺構完掘状況
- PL 3 I 区 遺構完掘状況・遺物出土状態
- PL 4 I 区 遺物出土状態
- PL 5 I 区 遺構検出状況・遺構完掘状況
- PL 6 I 区 遺構完掘状況
- PL 7 I 区 遺構完掘状況・遺物出土状態
- PL 8 I・II 区 遺物出土状態・遺構検出状況
- PL 9 II 区 遺物出土状態・遺構完掘状況
- PL10 II・III 区 遺構検出状況・遺構完掘状況
- PL11 出土遺物
- PL12 出土遺物
- PL13 出土遺物
- PL14 出土遺物
- PL15 出土遺物
- PL16 出土遺物
- PL17 出土遺物
- PL18 出土遺物

第Ⅰ章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

土佐山田町は高知県の中央東寄りに位置し、県下第3位の川である物部川の中流域に位置する。物部川により形成された沖積平野に県下最大の穀倉地帯である高知平野の北端に位置し、物部川の洪積台地及び四国山地の一部を含む。

この物部川は、県北東部の香美郡物部村、剣山系の白髪山（1,770m）の東斜面に源流を発し、高知平野東部の同郡吉川村で土佐湾に注ぐ。上・中流域は仏像構造線に沿って直線的に西南西流しており、流路に沿った上流へのルートは古来阿波國への最短距離として知られている。物部川に沿う山間部には河岸段丘が発達^⑩、土佐山田町で流路を南に変える。土佐山田町神母の木付近において平野部に流入し、肥沃な高知平野を継続する。

高知平野東部を成す香長平野は不整形の扇状地で物部川河岸には鏡野^⑪、山田野^⑫と言われる古期扇状地の砂礫層から成る洪積台地を形成している。この台地は長岡台地と称される。長岡台地は、香長平野の北郊を土佐山田町から南国市にまたがり、北東から南西に約5km連なる。洪積世中期以降に形成された比較的連続性に富んだ砂礫台地で隆起性扇状地である。

標高は扇頂部に近い土佐山田町付近では約50mに達し南西に緩やかに傾斜し、扇端部の南国市後免町付近では10m～15mである。台地面の北西側は国分川流域に扇状地性低地、南東側は物部川下流域の扇状地性低地に対して段丘面を持って接している。台地は河床から5m内外の標高を持ち、台地の間に新期扇状地が広がり、北端部は国分川の浸食により断崖を形成する。

洪積台地には旧石器時代の遺跡は発見されていないが物部川河岸段丘河岸の山麓部^⑬、国分川水系である砥川の発生する山間部の山麓部^⑭で確認されている。また縄文時代の遺跡もほぼ同じ位置に所在する^⑮。新期扇状地から沖積平野にかけての大地には県下最大の遺跡群、田村遺跡群（縄文時代～近世）^⑯を始め大猿遺跡（弥生時代）^⑰が分布する。また、条里制地割の遺構が広く認められるが、旧物部川は洪水氾濫をたびたび繰り返しており条里制地割の乱れた地域も多く、旧流路も數本認められる。

土佐山田町の市街地が乗っている扇頂部分付近は周囲に比べて高位な面となり、南部に一段低い下位面があり、二段の段丘面となっている。中央部から末端部は低地性氾濫原に向かって緩やかに台地斜面が傾斜し、特に南西端は扇状地性低地の粗粒性沖積層に埋没しており湧水地帯となって小河川が流出し湿地帯を形成している。土壌は多湿黒ボク土壤であり、層の厚さは20cm～50cm以上で下層は灰色か灰褐色の場合が多い。台地面は自然の河流が無く江戸時代以前は開発が遅れていたが、江戸時代初期、土佐藩奉行野中兼山が物部川に山田堰を築き、灌漑水路を設けたことによって台地面にも導水が行なわれた。開発には、郷士が登用され、台地上には旧郷士屋敷が散在し、散村的景観を呈している。また、後免・土佐山田・野市の在郷町もこの時期に形成されたものである。

灌漑用水により、かつては米の二期作が盛んであり、現在も高知平野の水田地帯の一部であるが、乾田であるため、古来、蕎麦・タバコ・野菜の栽培も盛んである。近年はビニールハウスの施設園芸も増加してきている。町域面積の70%を森林地帯で占め、林業が盛んで良材を多く産出する。工業は、

地場産業の打刃物などがある。扇頂部の土佐山田町は物部川上流部と香長平野の接点に立地した谷口集落でもある。台地面はかつて開発の主体となった郷土屋敷の点在する散村形態がみられ、現在もその景観の名残がみられる。台地面の長軸（北東～南西方向）には沿う方向でJR土讃本線及び国道195号線が直線的に通過している。東にある三宝山の中腹には国指定史跡及び天然記念物である龍河洞があり、県下でも有数の観光地となっている。

註

- (1)『南国市史』上巻 南国市教育委員会 1979
- (2)『野市町史』上巻 野市町教育委員会 1992
- (3)『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会 1979
- (4)佐野楠目山からは石核、剥片などが表面採集されている。
- (5)新改西谷遺跡からはナイフ型石器が多量に出土している。
- (6)新改開キ丸遺跡などがあげられる。
- (7)『出村遺跡群 高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第1分冊～第15分冊 1986
高知県教育委員会
- (8)註(1)と同じ

参考文献

- 『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会 1979
『角川 日本地名人辞典 39高知県』 角川書店 1986

2. 歴史的環境

土佐山田町は、地理的に恵まれ県下最大の穀倉地帯である香長平野の一画に位置することから原始以来、人々と人の営みを古地に刻みつけている。また、南に隣接する南国市とともに県下屈指の遺跡密集地帯である。

土佐山田町の歴史は、北部山麓部の西谷遺跡⁽¹⁾の調査により旧石器時代後期に始まる。二次堆積物ではあるがチャート製のナイフ型石器が多量に出土し、遺跡の立地など奥谷南遺跡⁽²⁾と非常によく似ている。続く縄文時代では、新改川の河岸段丘上に立地する開キ丸遺跡⁽³⁾より早期押型文土器が出土し、また新改川支流の砥川左岸の小山田遺跡⁽⁴⁾からは、晩期の土壙4基と突宍文土器が出土している。北部山間部に所在する飼古屋岩陰遺跡⁽⁵⁾からは早期押型文土器、厚手無文の葛島式土器、中期の船元II式土器、後期の彦崎KII式土器とともに多量のサスカイト製の石鎌が出土している。また、東部物部川左岸の段丘上に林田シタノチ遺跡⁽⁶⁾が存在するが、ここではピット状造構から後期初頭の中津式土器が出土している。

弥生時代では前期に属する遺跡の確認には至っておらず、今のところ中期後半に位置づけられる龍河洞穴遺跡⁽⁷⁾が最古である。この遺跡は全山石灰岩でできた三宝山（322m）の中腹に開口した洞穴遺跡で、昭和8年に遺跡の部分が発見され、翌9年に天然記念物及び史跡として国指定を受けている。洞内の生活面は3室からなり、出土遺物は凹線文の発達した龍河洞式土器をはじめ、鉄鎌、石錐、有孔鹿角製品、貝輪、骨製管玉、瑠璃製勾玉等の装身具、貝類、獸骨類の自然遺物などである。また、龍河洞式土器に混在してただ一点、弥生時代後期末のヒビノキII式土器が出土している。龍河洞穴遺跡と同時期とみられる遺跡に、予岳遺跡⁽⁸⁾、雪ヶ峰遺跡⁽⁹⁾、影山遺跡⁽¹⁰⁾がある。中期後半に属する遺跡は多く、原遺跡⁽¹¹⁾、原南遺跡⁽¹²⁾からは竪穴住居跡とともに環濠と思われる溝や掘建柱建物跡等、集落を構成していた遺構も発見されている。その北部台地上には、弥生時代後半～古墳時代初頭の土器群が出土したひびのき遺跡⁽¹³⁾が存在する。これらの土器群はヒビノキI～ヒビノキIII式土器と命名され、高知県中央部以東の標準式土器とされていると共に、同遺跡がその時期に集落遺跡として栄えたことを示している。

弥生時代も後期となると遺跡数、規模の拡大がみられ、特に同遺跡に代表される後期後半に属する遺跡の急増が認められる。隣接するひびのきサウジ遺跡⁽¹⁴⁾では、弥生時代後期後半の竪穴住居跡が5棟検出されており、この内1棟は祭祀的意味を持つものと考えられている。また、物部川左岸には林田遺跡⁽¹⁵⁾が存在する。ここからは竪穴住居跡5棟が検出され、土器と共に多量の鉄鎌が出土している。

古墳時代には、小円墳・横穴式石室・群集といった特徴を持つ後期古墳が存在し、山麓部を中心に知られている。中でも、ひびのき遺跡に近い伏原大塚古墳⁽¹⁶⁾は、5世紀末から6世紀初頭に築造されたと考えられる。また、この古墳の周溝からは須恵器の円筒埴輪が出土している。この期の須恵器の窯跡は今のところ発見されていないが、当古墳の埴輪の存在を考えれば、出現期は少なくとも築造期と同時期まで遡ることは可能であろう。また、これらの遺跡を特徴づける遺跡として当町北部の新改地区とその周辺に所在する須江古窯群を挙げることができる。

奈良時代から平安時代にかけての須恵器、瓦焼成の窯跡が現在40数カ所確認されている。窯跡の

中には比江魔寺跡⁽¹⁸⁾の瓦を焼成したタンガン遺跡⁽¹⁹⁾や土佐国分寺の平瓦を焼成した東谷窯跡⁽²⁰⁾も存在し、また新改川左岸の河岸段丘に所在する須江上段遺跡⁽²¹⁾、須江北遺跡⁽²²⁾からは官衙的掘立柱建物跡や多量の須恵器、土師器が出土している。特に須恵器には湾曲した遺物が混在しており、須恵器生産に係わる遺跡と考えられる。なお、新改、須江地区はその西方2kmに土佐国府を控えていることから国府と密接な結びつきが想定される。

当町南部の沖積平野は高知県最大の平野、香長平野北端部にあたり、広く古代の条里製造構⁽²³⁾を残している。また、「大領」・「田倉」・「宮毛田」等の地名があり、周辺からは古代の遺物が表面採集され古代香美郡の郡の推定地⁽²⁴⁾と考えられる。

中世では、土佐戦国七雄に数えられる山田氏⁽²⁵⁾が建久4年（1193）に土佐国へ入国以来勢力をのばし、楠目の山田城を本拠⁽²⁶⁾に領主制支配を行なうが、長宗我部氏により天文期頃攻撃を受けて滅亡する。

近世にはいり野中兼山⁽²⁷⁾による山田堀、上、中、舟入川の三用水の敷設等による長岡台地の開発により在郷町⁽²⁸⁾として香美郡北部の山間地域と南部の平野部との接点として物産集散地となり、高知城城下町の経済圏域として発展し、今日に至る。

註

- (1) 西谷遺跡『土佐山田史談』第25号「土佐山田町における考古学の成果と課題（VI）」2000
- (2) 『奥谷南遺跡Ⅰ』（財）高知県文化財埋蔵文化財センター 1999
- (3) 『萬キ丸遺跡 新改中部地区圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 2002
- (4) 小山田遺跡 註1と同じ
- (5) 『剣古屋岩陰遺跡発掘調査報告書』日本道路公団・高知県教育委員会 1983
- (6) 『林田シタノメ遺跡Ⅱ 農村基盤総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 1993
- (7) 『龍河洞』高知県教育委員会 1959
- (8) 『土佐山田町史』P52 土佐山田町教育委員会 1979
- (9) 註8と同じ
- (10) 註8と同じ
- (11) 『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－原遺跡－』高知県教育委員会 1982
『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－原遺跡II－』第25集 高知県教育委員会 1984
- (12) 『原南遺跡発掘調査報告書』高知県文化財団 1991
- (13) 『ひびのき遺跡』土佐山田町教育委員会 1977
- (14) 『ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書』（土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第8集）土佐山田町教育委員会 1990
- (15) 『林田遺跡発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 1985
- (16) 『伏原大塚古墳』（土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第14集）

土佐山田町教育委員会 1993

- (17) 註8と同じ
- (18) 『高知県文化財調査報告書第16集 高知県比江庵寺跡』高知県教育委員会 1970
『高知県文化財調査報告書第33集 比江庵寺跡発掘調査概報』高知県教育委員会 1991
- (19) 註8と同じ
- (20) 『新改東谷古窯跡群発掘調査』土佐山田町教育委員会 1978
- (21) 『土佐山田北部遺跡群－山田北部県営は場整備事業に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書－』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第12集)
- (22) 註21と同じ
- (23) 岡本龍児「土佐神道考古学5」「土佐史談」第120号
- (24) 註8と同じP217
- (25) 註8と同じP248
- (26) 註8と同じP354
- (27) 註8と同じP365



図1 高知県の市町村と土佐山田町の位置

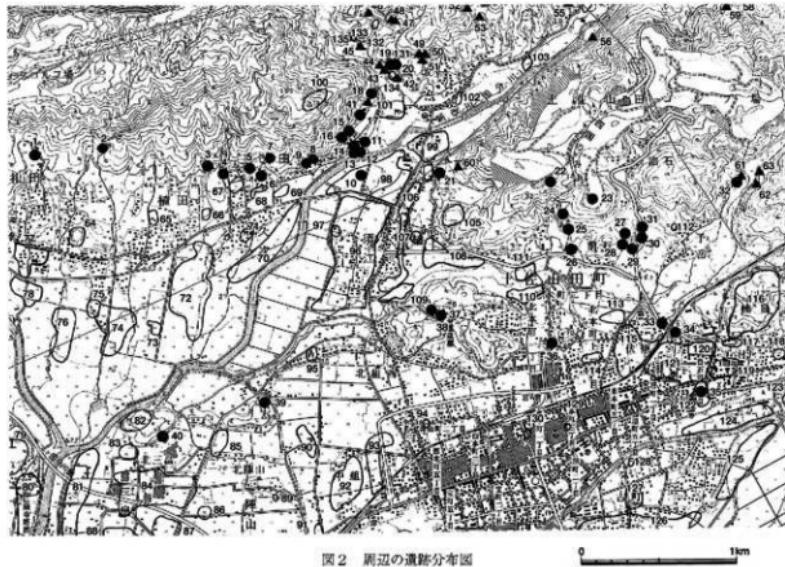


図2 周辺の遺跡分布図

0 100m

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	中山田古墳	古墳	35	伏原大塚古墳	古墳	69	東山田遺跡	私塚・古墳	103	三反山田遺跡	平安
2	高奈古墳	*	36	六工寺西古墳	*	70	古田神道遺跡	古墳・平安	104	入野南遺跡	平安・中世
3	藤田古墳群	*	37	寒山1・2号古墳	*	71	久次土居城跡	中世	105	植木城跡	中世
4	西久保古墳	*	38	山田3号古墳	*	72	ハナマダ遺跡	古墳・平安	106	横川寺道跡	古墳・古墳
5	次郎ヶ谷野古墳	*	39	陣山古墳	*	73	妙ケ田遺跡	*	107	桂寺土居遺跡	平安・中世
6	次郎ヶ谷野古墳	*	40	三島山古墳	*	74	我ヶ内遺跡	*	108	西ヶ原1号古墳	古墳・云々
7	田村氏古墳	*	51	西ノ内城跡	*	75	西ノ内居城跡	中世	109	キジワリ1号古墳	*
8	桑ケ谷1号古墳	*	42	小山田1号古墳	古墳・奈良	76	白解田遺跡	古墳・平安	110	山ノ元丸遺跡	中世
9	桑ケ谷2号古墳	*	43	小山田2号古墳	*	77	ノト野村遺跡	中世	111	桜ヶノサト遺跡	*
10	荒江ツカナ古墳	*	44	小山田3号古墳	*	78	白解田遺跡	平安・中世	112	山田氏系代所	*
11	新改2号古墳	*	45	東松本然跡	奈良・平安	79	北山城跡	中世	113	メウカイ遺跡	平安・中世
12	新改3号古墳	*	46	東松本然跡	奈良・平安	80	北山守護跡	桃山・奈良	114	長谷川丸山遺跡	古墳・平安
13	新改4号古墳	*	47	東谷1号古墳	*	81	北山道跡	桃山・奈良	115	伏見遺跡	桃山・平安
14	新改4号古墳	*	48	東谷2号古墳	*	82	西母神遺跡	古墳	116	植木城跡	中世
15	椎谷1号古墳	*	49	神ノ谷1号古墳	*	83	二鳥城跡	中世	117	ひびの丸山遺跡	桃山・近世
16	椎谷2号古墳	*	50	神ノ谷2号古墳	*	84	三段遺跡	桃山・平安	118	田無神社遺跡	桃山・中世
17	西ノ内1号古墳	*	51	神ノ谷3号古墳	*	85	二ノ山遺跡	六条・中世	119	ひびの1号古墳	桃山・古墳
18	西ノ内2号古墳	*	52	西谷1・2号古墳	*	86	白山遺跡	古墳・平安	120	ひびの2号古墳	桃山・中世
19	小山田2号古墳	*	53	大谷2号古墳	*	87	清水遺跡	桃山・平安	121	ひびの1号古墳	桃山・近世
20	小山田3号古墳	*	54	大谷3号古墳	*	88	稻葉遺跡	余市・中世	122	大通遺跡	*
21	タンガン古墳	*	55	八ノ谷遺跡	平安	89	有明北嶺山遺跡	平安	123	大石郡遺跡	桃山
22	度波古墳	*	56	度セガイ空断	古墳・奈良	90	禹須の西遺跡	古墳・平安	124	横川上遺跡	桃山・近世
23	越前古墳	*	57	大寺寺2反巨麻路	古墳	91	山田三ツ又遺跡	*	125	柿原前重跡	*
24	枕坂東古墳	*	58	大寺寺ヒスヤギ2号古墳	奈良・平安	92	山田三ツ又遺跡	私塚・中世	126	尻足跡	桃山・近世
25	小羽古墳	*	59	大寺寺ヒスヤギ2号古墳	奈良・平安	93	山田三ツ又遺跡	私塚・中世	127	古町西御跡	桃山・平安
26	津前古墳	*	60	タンガン空断	桃山	94	谷瀬遺跡	近世	128	古町北道跡	桃山・古墳
27	種ヶ谷古墳	*	61	岳原跡	古墳	95	野ノ山神社	近世	129	公卿の井戸2	近世
28	南行山1号古墳	*	62	長谷山1号古墳	平安	96	酒匂上山遺跡	古墳・遠近	130	公卿の井戸1	*
29	南行山2号古墳	*	63	長谷山2号古墳	*	97	御江駒跡	平安	131	公木山1号古墳	中世・近世
30	志神古墳	*	64	奈ノ土居遺跡	古墳・中世	98	周辺北遺跡	古墳・平安	132	静御寺跡	*
31	大元神社古墳	*	65	輪田土居城跡	*	99	魚崎神社遺跡	奈良・中世	133	静御寺跡	*
32	火神社古墳	*	66	寺中遺跡	古墳・平安	100	汝原氏庭見の城跡	中世	134	小山田遺跡	鎌倉・古代・中世
33	与乐古墳	*	67	北界遺跡	古墳・中世	101	南ヶ内遺跡	奈良・中世	135	西谷跡	近石器
34	小曾山古墳	*	68	比谷田遺跡	古墳・平安	102	畠田山遺跡	中世			

表1 須江上段遺跡周辺の遺跡一覧

第Ⅱ章 調査に至る経過

1. 調査に至る経過

近年、農業の規模拡大等の整備政策が進められ、農業構造改善事業として、圃場整備事業が行なわれている。当新改地区においても改良組合が設立され、山田北部地区土地改良、新改西部土地改良、新改中部土地改良と設立され、県営圃場整備事業が計画、実施されている。

山田北部上地改良区内は埋蔵文化財包蔵地に相当する箇所であり、土佐山田町教育委員会は工事計画との調整資料を得るために、昭和63・平成元・2・3年度に文化庁国庫補助金により遺構の範囲確認のための試掘調査を実施し、基礎データを得た。その後、事業施工による埋蔵文化財の保存協議を高知県南国耕地（現中央耕地）事務所、山田北部地区土地改良区、土佐山田町教育委員会の三者で協議した。その結果、盛土工法等による計画変更がなされたが一部施工計画が変更できない箇所について、遺構の記録保存を図る調整協議がされ、記録保存のための発掘調査を実施した。

本調査の対象である須江上段遺跡は農地より多数の須恵器片が表面採集でき、また四回電力鉄塔建設に伴う発掘調査により弥生時代、古代の遺構が確認されており発掘調査を実施するに至った。

2. 調査の方法

試掘調査の結果により、水路、農道、削平部の調査区を設定し、耕作土等の表土を主に重機により除去を行ない、遺構検出面または、遺物包含層直上まで掘削を行なった後、人力による精査を行なった。遺構、遺物の出土状況及び層等については、写真撮影を行なった後、平面図及び断面図を作成した。遺物の取り上げ、遺物の実測については、任意座標に基づいて地区全体に4m方眼をかけ記録、実測を行なった。平面実測、及び地層断面については、20分の1を基本とし、必要に応じて10分の1の実測を行なった。



図3 発掘調査区 住居図

第Ⅲ章 調査成果

第1節 1区の調査成果

(1) 層序

土層観察は第1調査区第3区の北壁、東壁で行った。基本土層観察は北壁で行い、東壁は北壁と整合性が取れるようにした。基本土層は第1層は12cmから16cmの表土（耕作土）、第2層は30cmから45cm程度の遺物包含層で場所により50cmに達する所もあるが20cm程度のところもみられる。第3層は地盤で小さな礫を含む。

(2) 遺構と遺物

遺構については、第1調査区第3・4・5・6・7区に集中している。全般に第1層の表上以下に第2層の遺物包含層があり、第3層の面で遺構は検出できた。

今回の遺構で確認された遺構のうち、竪穴式住居跡1棟、掘立柱建物跡1棟、土壙4基、溝跡9条、ピット多数について遺物が出土している遺構について報告する。

(1) 竪穴式住居跡

S T - 1 (図5)

第1調査区第7区の中央部に位置している。住居跡は東西直径約6m、南北直径約14.5m、深さ15cm～20cmを測る。遺構は後世の削平をうけ浅い。炉跡は調査区のバンクにより確認できなかつたが住居跡内には20cm～30cmの柱穴を有する。住居跡内西側には溝跡がみられる。床面は張り床で、床面上より弥生土器の壺（6. 7. 10. 27. 30）、甕（33）、手づくね土器（10. 28）、石斧（4）粗製石包丁らしい石器（図示していない。）が出土している。

(2) 掘立柱建物跡

S B - 1 (図4)

第1調査区第7区の北部に位置している。規模は梁間1間（4m）以上、桁行3間（6.5m）以上の建物跡である。桁行（南北）の柱間寸法は2m～22mであり、柱穴は円形で、直径約70cm～80.5cm、深さ30cm～60.5cmである。根石は確認されていない。

遺物は柱穴内より須恵器、土師器の破片が出土しているが図示できるものはない。

(3) 土坑

S K - 1 (図4)

第1調査区第6区の西南に位置する。長い楕円形を呈した遺構である。最大直徑32cm、深さ35cm～40cmを測る。

(4) 溝

SD-1 (図4)

第1調査区第2区の北側に位置する。東西に走り長さ約10.9m、幅約0.63m、深さ約0.4mを測る。遺構内より土師器片が出土しているが図示できない。

SD-2 (図4)

第1調査区第7区の中央部に位置する。東西に走り底部は西側に傾斜する。長さ約11m、幅約0.6m、深さ約0.6mを測る。遺構内より須恵器片、土師器片が出土している。図示できる遺物はない。

(5) ピット (図4)

第1調査区第1・4・5・6区の調査区内のピット内より土師器、須恵器の細破片が出土しているが図示できる遺物はない。

(6) 性格不明遺構 (図4)

SX-1

第1調査区第7区の北側の西部分に位置する。遺構の形状はお多福状の形状を成す。南北約6.5m、東西約4m、深さ0.15mを成す。床面より須恵器の蓋(1)と臺の口縁部(3)、土師器は蓋(8)、杯(24)が出土している。

(7) 包含層出土遺物

I・II区の包含層より良好な遺物が出土している。次節で述べる。

第2節 I・II区調査の遺物

(1) 包含層遺物

調査区はI区、II区に別れ北側がI区でその南側にII区が位置している。遺物包含層は基本土層観察では第2層となり以下報告する遺物の取り上げを行なった。

I区

第1分類 須恵器(碗)(遺物観察表番号20, 29, 79, 80)

碗の底部は回転窓により切り離され、しっかりしたハの字状の張付き高台または、シャープな高台がつく。胴部は斜上方に立ち上がり口縁部にいたる。口縁部はやや外反し、丸くおさめる。胎土は精選された粘土を使用している。法量は平均して口径13cm~16cm内外、器高4cmから6cm内外である。底部内面はナデがみられ、内外面ともに回転ロクロによる横ナデ調整がほどこされている。一部焼成不良もあるが全体として焼成は良好な遺物が多い。

第2分類 須恵器(杯)(遺物観察表番号75)

杯の胎土は精選された粘土で底部外面は回転窓削りで底部から外上方に上がり胴部でやや立ち上がり、口縁の端部は丸い。内外面ともにロクロによる回転ナデによる調整が施される。底部は平底である。焼成は良好である。

第3分類 須恵器(皿)(遺物観察表番号32, 76, 77, 83, 84)

精選された胎土の粘土で内外ともに回転ロクロによる横ナデ調整が施される。ベタ底で、底部より斜上方に外反し、立ち上がり口縁部にいたる。先端は丸くおさめる。

第4分類 土師器(杯)(遺物観察表番号12, 65, 66, 67, 69)

胎土は精選された粘土で内外面ロクロによる横ナデ調整がなされ、底部はベタ底で外面は静止窓切りである。胴部は短く口唇は丸い。

第5分類 土錐(遺物観察表番号16, 17, 18, 19, 68, 81)

すべて土師質で胎土は精選された物と石英、砂粒をやや多く含むものがある。全長3.4cm~7.9cm、幅は1.5cm~6.0cmを測る。

第6分類 須恵器(蓋)(遺物観察表番号1, 2, 31)

胎土は精選された粘土を使用している。法量は平均して蓋の口径15cm~16cm内外、器高2.7cmから3.0cm内外である。内面は回転ナデがみられ、内外面ともに回転ロクロによる横ナデ調整がほどこされている。焼成は良好な遺物が多い。蓋には丸い扁平な摘みをもつ。

第7分類 土師器（壺）（遺物観察表番号21, 26, 78, 82）

胎土は石英、砂粒を多く含む。口縁部は厚みをもち、外反する。胴部はほぼ垂直状態であり内外ともに横ナデ調整がみられる。外面には継に刷毛目による調整が施される。焼成はおおむね良好である。

第8分類 土師器（皿）（遺物観察表番号11）

胎土は精選された粘土で内外面ロクロによる横ナデ調整がなされ、底部はベタ底で外面は静止範切りである。胴部は短く口唇は丸い。

第9分類 須恵器（高杯）（遺物観察表番号13）

脚部の破片で胎土は精選された粘土で内面は回転横ナデ、外面は範と横ナデによる調整がみられる。

第10分類 土師器（高杯）（遺物観察表番号22, 34, 71, 72, 73）

高杯の脚部の破片である。多角形を有する脚部が多い。胎土は精選された粘土を使用し、内面は回転横ナデ、外面は一部、範による調整が見られる。杯の接合部である天井部は一段高く膨らみ範による平らな調整により仕上げている。

第11分類 須恵器（壺）（遺物観察表番号5）

胎土は精選された粘土から石英、小石を含むものとさまざまである。短口壺は外面、内面ともにロクロによる回転横ナデ調整である。肩部はしっかりと張り、胴部は底部に向かって窄まる。

第12分類 その他の遺物

（1）石器

石斧（遺物観察表番号15）は刃部が欠落している。叩石（遺物観察表番号70）は閃緑岩製である。砥石（遺物観察表番号14）は砂岩製である。

（2）金属製品

玉（遺物観察表番号24, 74）は鉛玉である。

Ⅱ区

第1分類 須恵器（碗）（遺物観察表番号37, 39, 57, 60, 64）

碗の底部は回転範により切り離され、しっかりとハの字状の張付き高台または、シャープな高台がつく。胴部は斜上方に立ち上がり口縁部にいたる。口縁部はやや外反し、丸くおさめる。胎土は精選された粘土を使用している。法量は平均して口径13cm～16cm内外、一部20cmを測る物

がある。器高4cmから5cm内外である。底部内面はナデがみられ、内外面ともに回転ロクロによる横ナデ調整がほどこされている。一部焼成不良もあるが全体として焼成は良好な遺物が多い。

第2分類 土師器（碗）（遺物観察表番号41）

胎土は精選された粘土で内外面ロクロによる横ナデ調整がなされ、底部はハの字に高台が広がる。

第3分類 土師器（盤）（遺物観察表番号61）

胎土は精選された粘土を使用する。内外面共に回転ロクロによる調整が施される。焼成は非常に良好である。

第4分類 須恵器（蓋）（遺物観察表番号38. 44. 45. 47. 48. 61. 62）

胎土は精選された粘土を使用している。法量は平均して蓋の口径14cm～15cm内外、器高2.0cmから3.0cm内外である。内面は回転ナデがみられ、内外面ともに回転ロクロによる横ナデ調整がほどこされている。焼成は良好な遺物が多い。蓋の天井部上には丸い扁平な摘みをもつ。

第5分類 土師器（甕）（遺物観察表番号53. 55）

胎土は石英、砂粒を多く含む。口縁部は厚みをもち、口径20cmを測る。外反する。胴部はほぼ垂直状態であり内外ともに横ナデ調整がみられる。外面には縦に崩毛目による調整が施される。焼成は良好である。

第6分類 土師器（蓋）（遺物観察表番号59. 63）

胎土は精選された粘土で内外面ロクロによる横ナデ調整が施されている。口径は14cm～20cmを測る。蓋端部の口唇は丸い。蓋の天井部の上に丸い扁平のつまみをもつ。

第7分類 須恵器（高杯）（遺物観察表番号52. 54）

脚部の破片で胎土は精選された粘土で内面は回転横ナデ、外面は竪と横ナデによる調整がみられる。

第8分類 土師器（高杯）（遺物観察表番号40. 42. 43. 49. 51. 58）

高杯の脚部の破片で多角形である。胎土は精選された粘土で内面は回転横ナデ、外面は一部、竪による調整が見られる。杯の接合部は天井部は一段高く膨らみ竪による平らな調整によりしあげている。焼成は非常に良好である。

第9分類 須恵器（壺）（遺物観察表番号46）

胎土は石英、小石をを多く含む。壺の口縁部は外面、内面ともにロクロによる回転横ナデ調整

である。一部叩き目による調整がみられる。肩部はしっかりと張り、胴部は底部に向かって窄まる。胴部内面には青海波紋の叩き目による調整がありそれを横ナデによる擦り消しの調整をおこなっている。焼成は良好である。

第10分類 土師器（碗）（遺物観察表番号56）

胎土は精選された粘土を使用している。内外面共にロクロによる調整を施している。

第11分類 その他の遺物

（1）瓦器（遺物観察表50）

底部は丸底で全体の厚みは薄い。胴部から口縁部にかけて黒色を成す。焼成は良好で胎土は精緻である。

（2）陶磁器

図示はしていない。遺物は壁が半田による構造の野トイレと思われる遺構より陶磁器が出土しているが近世から近代に属する陶磁器ため図示していない。

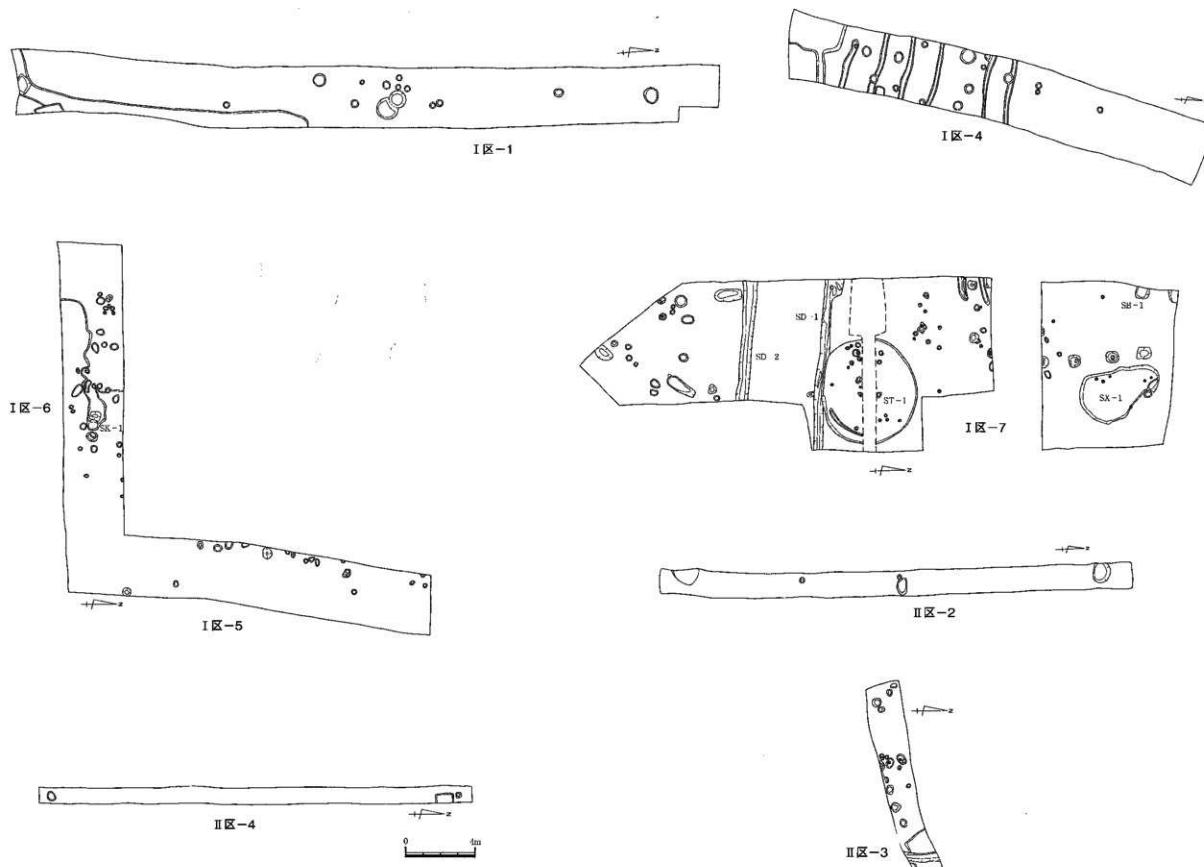


图4 兼振调查区 平面图

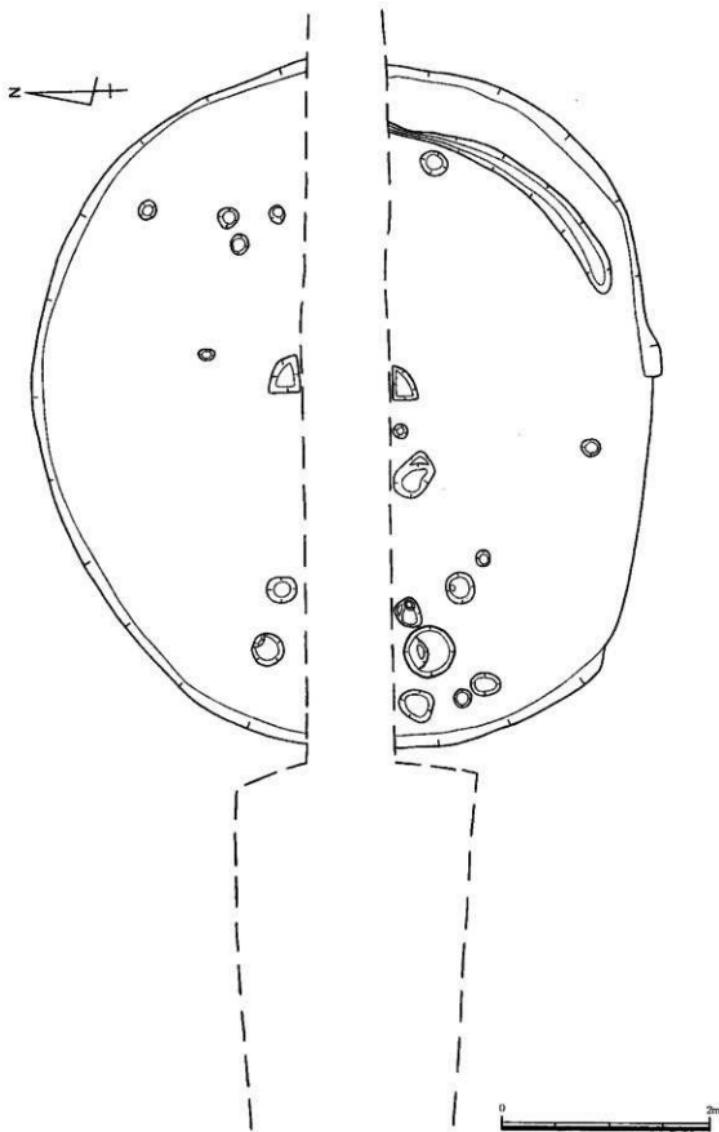


図5 第1調査区第7区 ST-1 平面図

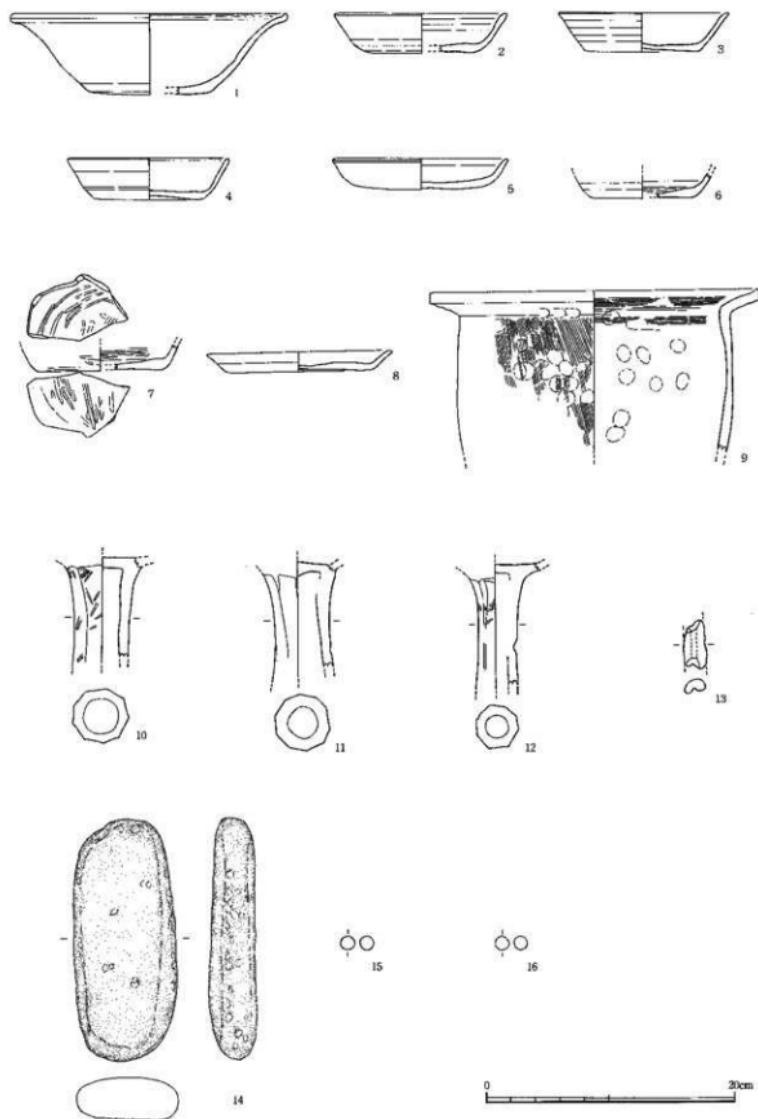


图6 遗物实测图（1区调查区5）

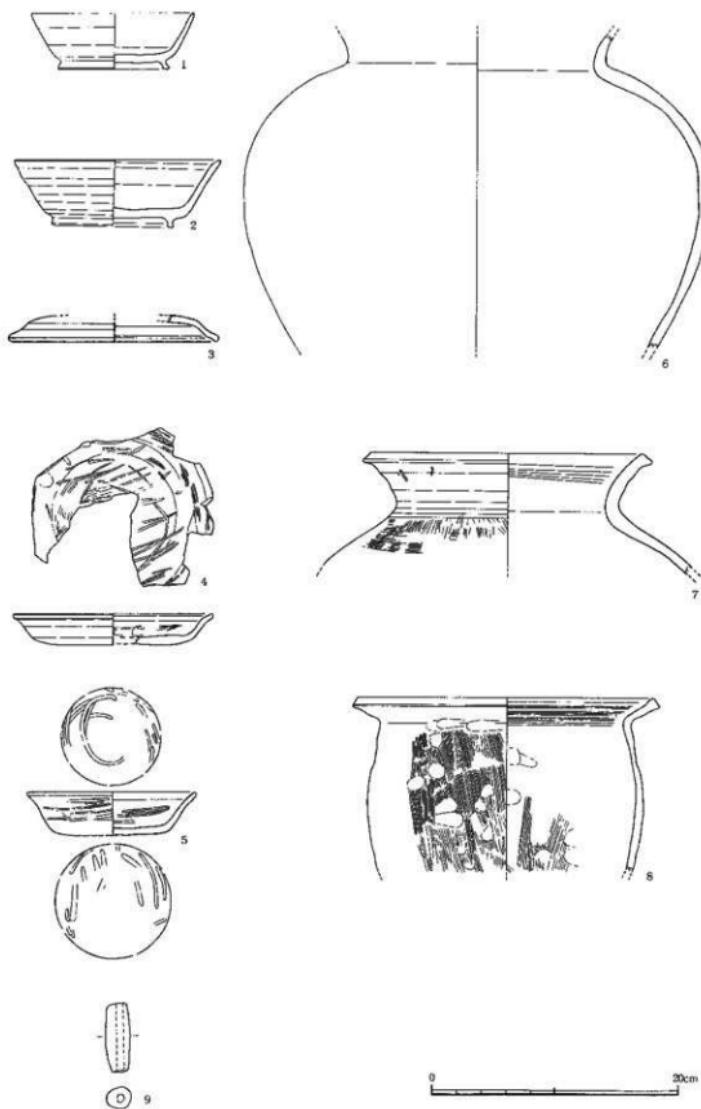


図7 遺物実測図（I区調査区6）

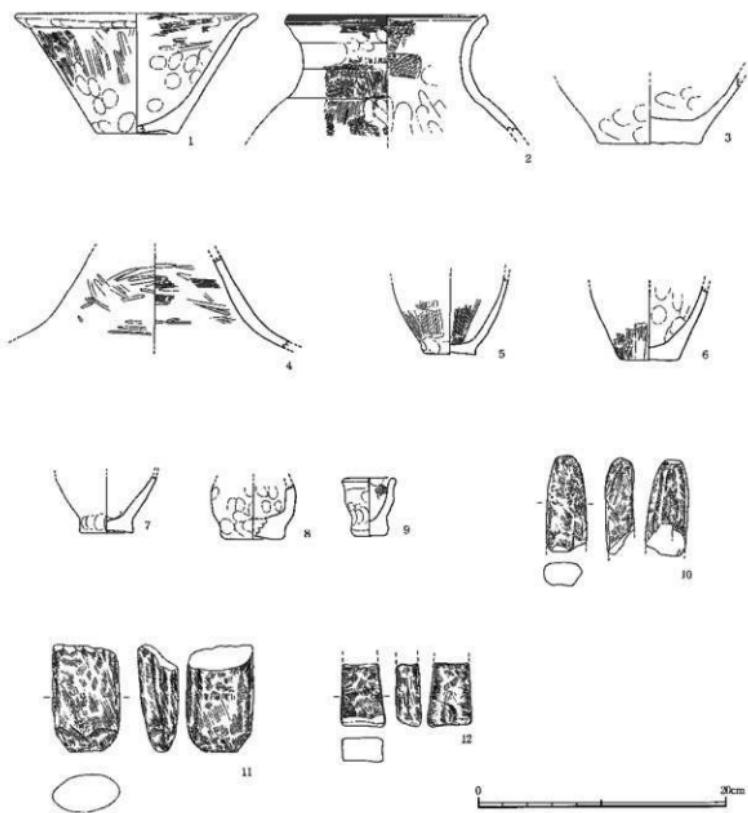


图8 遗物実測図（I区調査区7-①）

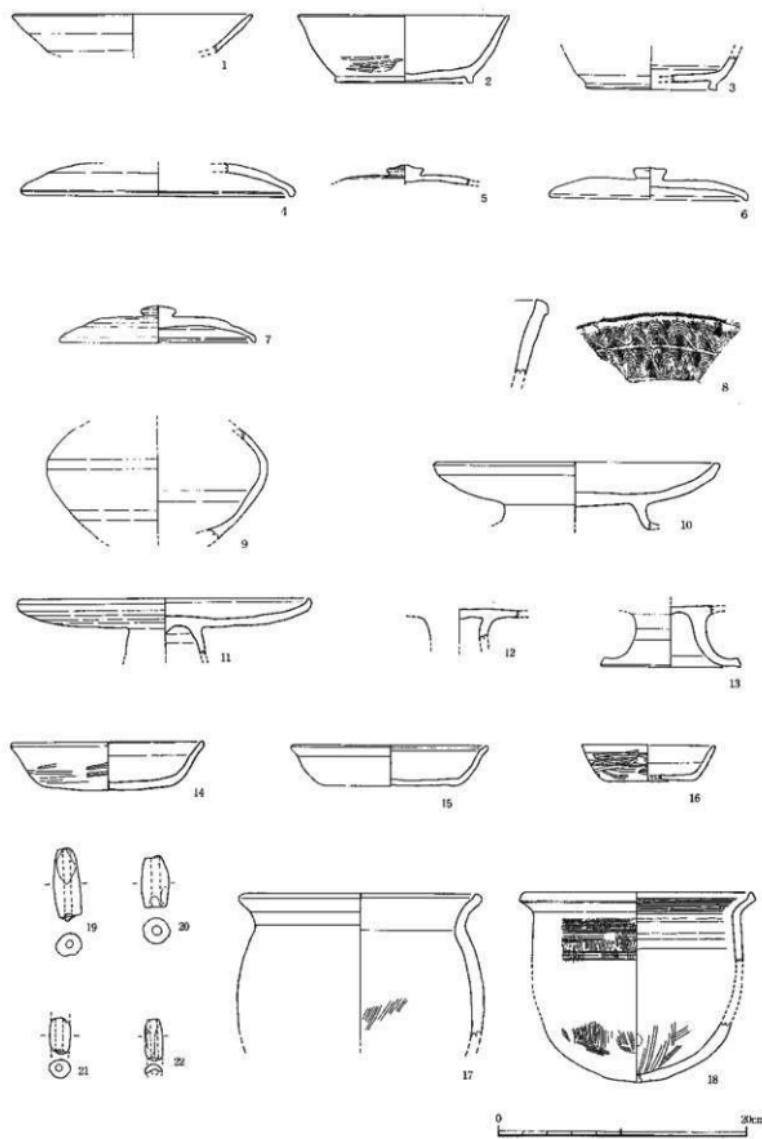


図9 遺物実測図（I区調査区7-②）

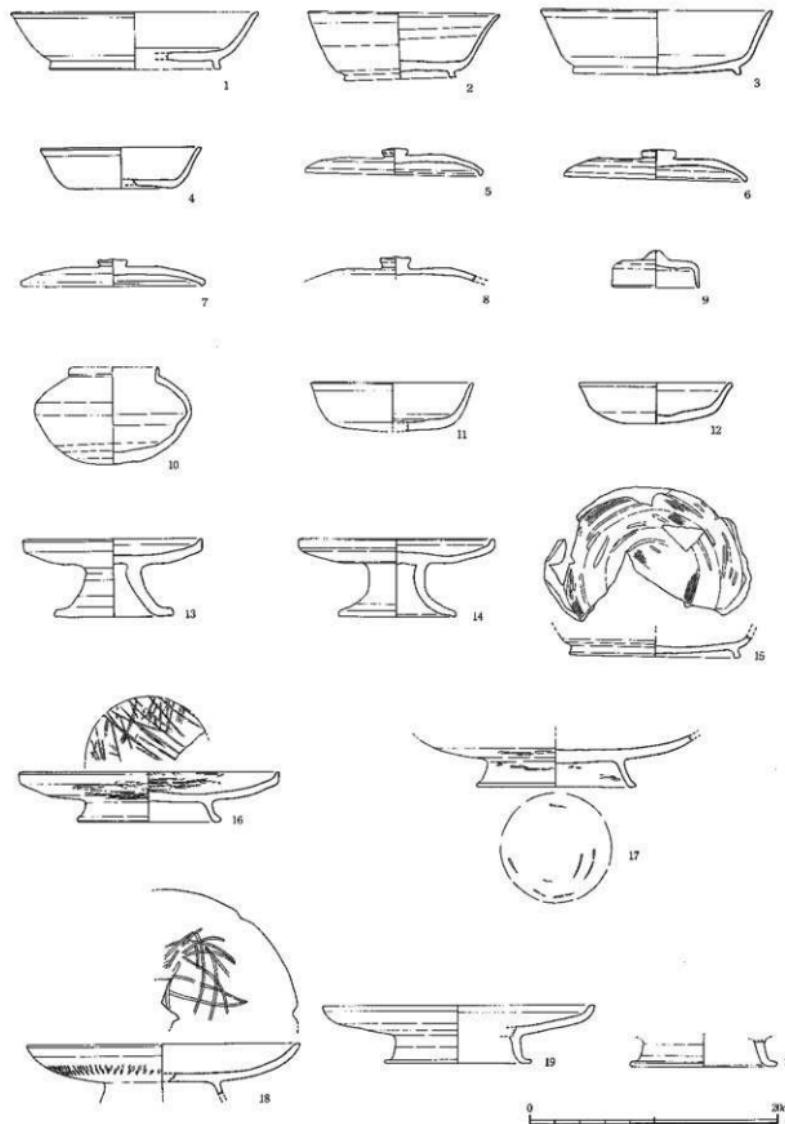




図10 遺物実測図（II区調査区）

実測 No.	図 No.	字寓 No.	出土地名 遺構・部位	種類	詳細	質量(g) 口径 底径 底厚	紹介	色調	特徴 成形／質感／その他		
									内面	外側	
1	9-6	24	ST-1	直	灰陶器	16.2 2.7	精選された粘土	良	内面：7.87g/1灰白 外側：8.7g/1灰白 断面：	回転ナメ	
2	9-7	23	SK-1	直	灰陶器	16.8 3.0	精選された粘土	良	内面：2.67g/2灰黒 外側：2.67g/1灰黒 断面：	回転ナメ	
3	9-8	54	SK-1	直 (口縁部)	灰陶器		精選された粘土	良	内面：2.57g/2灰黒 外側：2.57g/2灰黒 断面：	回転ナメ	
4	8-11	79	ST-1	石斧	石器	8.9 全長 全幅	3.5 3.1 全厚		内面： 外側： 断面：		
5	9-9	52	II層	直 (腹部)	灰陶器		精選された粘土	良	内面：2.57g/1灰黒 外側：16.灰 断面：	内外面クロロ回転ナメ	
6	8-6	34	ST-1	直 (底部)	灰生土器		5.2	精選された粘土	不良 内面：10.7g/3浅黄褐 外側：10.7g/4いぶい黄褐 断面：	横ナメ	
7	8-3	32	ST-1	直 (底部)	灰生土器		8.0	精選された粘土	良 内面：10.7g/4いぶい黄褐 外側：8.7/6 断面：	横ナメ	
8	9-4	66	ST-1	直	土師器	11.6	精選された粘土	良	内面：7.87g/9灰 外側：7.87g/9灰 断面：	内外面クロロ回転ナメ	
9	8-2	33	ST-1	直	灰生土器	16.0	精選された粘土	良	内面：10.7g/3浅黄褐 外側：10.7g/4浅黄褐 断面：	横ナメ	
10	8-9	28	ST-1	手づくね 土器	灰生土器	4.9 全長	4.8 2.4 全厚	精選された粘土	良 内面：10.7g/4浅黄褐 外側：7.87g/4浅黄褐 断面：	横ナメ	
11	7-4	38	SK-1	直	土師器	16.2 2.6	9.0	精選された粘土	良 内面：7.87g/4いぶい橙 外側：7.87g/4いぶい橙 断面：	内外面クロロ回転ナメ	
12	9-1	68	II層	杯	土師器	19.4		精選された粘土	良 内面：2.57g/7灰黄 外側：2.57g/7灰黄 断面：	内面クロロナメ	
13	9-13	39	II層	高杯 (脚部)	土師器		5.0 全長	11.2	精選された粘土	良 内面：2.57g/2灰黄 外側：10.7g/4いぶい黄褐 断面：5.7g/5.6g	
14	8-12	77	II層	砾石	石器	6.2 全長	3.5 全幅	3.1 全厚		内面： 外側： 断面：	
15	8-10	78	II層	石斧	石器	7.9 全長	3.6 全幅	2.5 全厚		内面： 外側： 断面：	
16	9-20	81	II層	土器	土師質	4.3 全長	2.3 全幅			内面：10.7g/3にいぶい黄褐 外側： 断面：	
17	9-21	65	II層	土器	土師質	5.0 全長	1.8 全幅		精選された粘土	不良 内面： 外側：5.7g/6橙 断面：	
18	9-22	54	II層	土器	土師質	3.4 全長	1.5 全幅		精選された粘土	不良 内面： 外側：7.87g/6橙 断面：	
19	9-19	82	II層	土器	土師質	6.0 全長	3.2 全幅		精選された粘土	不良 内面： 外側：10.7g/4にいぶい黄褐 断面：	
20	9-3	64	SK-1-1	碗	土師器		(推定) 16.4		精選された粘土	良 内面：7.87g/6橙 外側：7.87g/6橙 断面：2.57g/1灰白	
21	9-17	48	II層	甌	土師器	19.8			精選された粘土	良 内面：7.87g/4にいぶい橙 外側：7.87g/4にいぶい橙 断面：	内外面クロロ横ナメ削痕
22	9-12	73	II層	高杯	土師器				精選された粘土	不良 内面：5.7g/4いぶい橙 外側：5.7g/4いぶい橙 断面：5.7g/5.6g	全体に擦耗激しく表面不明
23	6-15	87	II層	玉	杓	1.2 全長	1.3 全幅	1.1 全厚		内面： 外側：	
24	9-14	15	SI-2	杯	土師器 (推定)	15.6 4.0	4.7		精選された粘土	不良 内面：5.7g/5.6g 外側：5.7g/5.6g	内外面クロロ回転ナメ 横ベタ底
25	9-16	11	SK-1	杯	土師器	10.7 全長	3.0 全幅	6.8 全厚	精選された粘土	不良 内面：7.87g/5.6g 外側：7.87g/5.6g	内外面クロロ回転ナメ 横ナメベタ底
26	9-15	49	II層	甌	土師器	18.3 全長	18.5 全幅		精選された粘土	良 内面：5.7g/6橙 外側：7.87g/6橙 断面：5.7g/5.6g	内外面クロロ横ナメ
27	8-7	27	ST-1	甌	灰生土器		4.1		精選された粘土	不良 内面：7.87g/6橙 外側：5.7g/5.6g	
28	8-8	29	SD-1	手づくね 土器	灰生土器		4.6		精選された粘土	良 内面：7.87g/4にいぶい橙 外側：5.7g/5.6g	
29	9-2	12	II層	甌	土師器	16.9 全長	5.5 全幅	11.0 全厚	精選された粘土	良 内面：10.7g/4にいぶい橙 外側：7.87g/4にいぶい橙	内外面ナメ仕上げ クロロによる剥離
30	8-6	31	ST-1	甌	灰生土器		4.6		精選された粘土	良 内面：10.7g/3灰黄 外側：10.7g/3灰黄	
31	8-6	51	SK-1	甌	灰陶器				精選された粘土	良 内面：5.7/2灰白 外側：5.7/2灰白	内面ナメ仕上げ 焼成による詰み少し有り

表2 遺物観察表

実測 No. No.	写真 No. No.	出土点 遺物・層位 遺物・層位	種類	基準	底面 寸法(cm) 幅(幅) 高さ(高さ)	形状	地質	地成	色調	等級 成刷/固結/その他	
									内面	外面	
32	9-15	14	日番	杯	土師器	16.1	3.5	10.2	精磨された紺土	不良	内面: 1STB/2灰黄褐 外面: 1STB/2灰黄褐 断面:
33	8-1	74	ST-1	甕	折生土器	19.4	9.5	6.6	精磨された紺土	不良	内面: STB/4Cにぶい橙 外面: 2.5V/1灰灰 断面:
34	9-11	61	ST-1	高杯	土師器	23.6			精磨された紺土	良	内面: STB/6橙 外面: STB/6橙 断面:
35	8-4	63	II層		土師器				精磨された紺土	良	内面: 1STB/4Cにぶい黄 外面: 1STB/4Cにぶい黄 断面:
36	9-10	50	ST-1	甕	土師器	23.4			精磨された紺土	良	内面: STB/6明赤褐 外面: STB/6橙 断面:
37	10-11	1	II層	杯	灰瓦器	13.4	4.0	9.1	精磨された紺土	良	内面: 2.5V/2オリーブ 外面: 1.7STB/1灰 断面:
38	10-7	19	II層	甕	灰瓦器	16.2	2.2		精磨された紺土	良	内面: 3V/1灰 外面: 3V/1灰 断面:
39	10-1	7	II層	瓶	土師器	20.2	4.7	14.0	精磨された紺土	良	内面: STB/6橙 外面: STB/6橙 断面:
40	10-19	68	II層	高杯	土師器	22.2	4.7	11.9	精磨された紺土	良	内面: 1STB/4灰黄褐 外面: 1.7STB/6橙 断面:
41	10-15	17	II層	甕	土師器				精磨された紺土	良	内面: 1.7STB/6橙 外面: STB/6橙 断面:
42	10-17	43	II層	甕	土師器				精磨された紺土	良	内面: STB/6橙 外面: STB/6橙 断面:
43	10-16	42	II層	甕	土師器	21.2	4.2	11.6	精磨された紺土	良	内面: STB/6橙 外面: STB/6橙 断面:
44	10-8	65	II層	甕	土師器				精磨された紺土	良	内面: 1.7STB/4Cにぶい橙 外面: 1.7STB/4Cにぶい橙 断面:
45	10-14	41	II層	高杯	灰瓦器	16.0	6.4	9.6	精磨された紺土	良	内面: 2.5V/2灰黄 外面: 2.5V/1灰白 断面:
46	10-16	26	II層	甕	灰瓦器	7.2	3.0	2.0	精磨された紺土	良	内面: 3V/1灰 外面: 3V/1灰 断面:
47	10-8	20	II層	甕	灰瓦器	14.4	2.2		精磨された紺土	良	内面: 3V/1灰 外面: 1.7V/1灰 断面:
48	10-9	22	II層	甕	灰瓦器	7.0	3.0		精磨された紺土	良	内面: 2.5V/2灰黄 外面: 2.5V/1灰 断面:
49	10-20	59	II層	高杯	土師器				精磨された紺土	良	内面: 1.7STB/4Cにぶい橙 外面: 1.7STB/4Cにぶい橙 断面:
50	10-25	25	II層	甕	瓦器	16.6	5.4	5.6	精磨された紺土	良	内面: 3V/1灰 外面: 3V/1灰 断面:
51	10-28	57	II層	高杯	土師器	25.4			精磨された紺土	不良	内面: 1.7STB/4Cにぶい橙 外面: 1.7STB/4Cにぶい橙 断面:
52	10-13	40	II層	高杯	土師器	14.8	6.4	9.8	精磨された紺土	良	内面: 1.7STB/4Cにぶい橙 外面: 1.7STB/4Cにぶい橙 断面:
53	10-22	46	II層	甕	土師器	27.1			精磨された紺土	良	内面: 1STB/6橙 外面: 1STB/6橙 断面:
54	10-24	69	II層	高杯	土師器				精磨された紺土	良	内面: STB/6橙 外面: STB/6橙 断面:
55	10-21	76	II層	甕	土師器	20.3			精磨された紺土	良	内面: 1.7STB/4Cにぶい黄 外面: 1.7STB/4Cにぶい黄 断面:
56	10-12	37	II層	杯	土師器	12.3	3.4	5.0	精磨された紺土	良	内面: 1.7STB/6灰 外面: 1.7STB/6灰 断面:
57	10-4	8	II層	杯	土師器	13.1	3.4	9.2	精磨された紺土	良	内面: 1.7STB/4Cにぶい黄 外面: 1.7STB/4Cにぶい黄 断面:
58	10-23	45	II層	高杯	土師器	30.0			精磨された紺土	良	内面: 1.7STB/6橙 外面: 1.7STB/6橙 断面:
59	10-6	18	II層	甕	土師器	14.7	2.5		精磨された紺土	良	内面: STB/6橙 外面: STB/6橙 断面:
60	10-3	6	II層	甕	土師器	17.9	9.3	13.4	精磨された紺土	不良	内面: 1.7STB/4Cにぶい橙 外面: 1.7STB/4Cにぶい橙 断面: 1.5V/1黄灰
61	10-18	44	II層	高杯	土師器	22.2			石灰、小石をやや多く含む	良	内面: STB/6橙 外面: STB/6橙 断面: STB/6橙
62	10-26	21	II層	甕	灰瓦器	14.8	2.0		石灰、小石をやや多く含む	良	内面: 3V/1灰黄 外面: 3V/1灰黄 断面: 3V/1灰黄

表3 遺物観察表

実測 No.	図 No.	写真 No.	出土地点 遺物・施設	種類	基準	計量(cm)	断土	地盤	鉢成	色調	特徴	
											成形	底面
63	10-27	60	日層	直	土師器	20.0			石突、小石をやや多く含む	良	内面：7.5TY6/4にぶい楕円面 外面：7.5TY6/4にぶい楕円面	回転クロ横ナメ
64	10-2	6	日層	直	灰土器	15.6	5.4	9.2	精選された粘土	良	内面：2.5TY6/2灰黄 外面：2.5TY6/2灰黄 断面：	
65	6-3	3	日層	杯	土師器	13.8	3.2	9.6	精選された粘土	良	内面：2.5TY6/2灰黄 外面：2.5TY6/2灰黄 断面：	回転ナメ/回転ヘタ切 内底面ナメ
66	6-2	15	日層	杯	土師器	14.0	3.3	8.0	精選された粘土	良	内面：2.5TY6/4にぶい楕円面 外面：10TY6/4にぶい楕円面 断面：	回転ナメ/内底面ナメ
67	6-6	67	日層	杯	土師器			7.7	精選された粘土	良	内面：10TY6/4にぶい楕円面 外面：10TY6/4にぶい楕円面 断面：	回転ナメ/内底面ナメ
68	6-13	83	日層	土瓶	土師器	4.9	1.9	1.2	精選された粘土	良	内面：7.5TY6/6灰 外面：10TY6/4にぶい楕円面 断面：	
69	6-1	9	日層	杯	土師器	22.2	6.6	9.8	精選された粘土	良	内面：5TY6/6灰 外面：7.5TY6/4にぶい楕円面 断面：	回転ナメ/内底面ナメ
70	6-14	76	日層	牛石	石器	19.9	8.6	4.0		内面：		
						全長	全幅			外面：		
										断面：		
71	6-12	71	日層	高杯 (脚付)	土師器				精選された粘土	良	内面：10TY6/6明黄色 外面：5TY6/6灰 断面：	
72	6-11	70	日層	高杯 (脚付)	土師器				精選された粘土	良	内面：5TY6/6灰 外面：7.5TY6/6灰 断面：	
73	6-10	72	日層	高杯 (脚付)	土師器				精選された粘土	不良	内面：5TY6/6灰 外面：5TY6/6灰 断面：10TY6/4にぶい楕円面	
74	6-16	96	二層	船玉	金剛	1.4	1.4	1.4		内面：		
						全長	全幅			外面：		
										断面：		
75	6-4	4	二層	杯	灰陶器	13.0	3.5	7.7	精選された粘土	不良	内面：2.5TY6/2灰黄 外面：2.5TY6/2灰黄 断面：	回転横ナメ
76	6-5	35	二層	直	灰陶器	13.9	2.6	12.4	精選された粘土	良	内面：5TY6/1灰 外面：3TY6 断面：	回転ナメ
77	6-5	36	二層	直	灰陶器	15.0	1.6	11.6	精選された粘土	良	内面：5TY6/1灰 外面：5TY6/2灰 断面：2.5TY6/1灰	回転ナメ/内底面ナメ
78	6-9	62	二層	直 (口縁付)	土師器	26.4			精選された粘土	不良	内面：10TY6/4にぶい楕円面 外面：10TY6/4にぶい楕円面 断面：10TY6/4にぶい楕円面	刷毛調便/粗底齊整
79	7-1	2	二層	碗	灰陶器	13.0	4.6	8.5	精選された粘土	良	内面：2.5TY6/1灰 外面：7.5TY6/1灰白 断面：	内外面横ナメ
80	7-2	16	二層	碗	灰陶器	16.7	5.7	9.6	精選された粘土	良	内面：10TY6/3Cにぶい黄緑 外面：7.5TY6/3にぶい黄緑 断面：	内外面横ナメ
81	7-9	80	二層	土瓶	土師質	5.8	2.0		精選された粘土	良	内面：2.5TY6/2灰黄 外面：	
82	7-6	47	二層	盤	土師器	24.2			精選された粘土	良	内面：7.5TY6/4にぶい楕 外面：10TY6/4にぶい楕 断面：10TY6/4にぶい楕	回転ナメ/内底面ナメ 回転ヘタ切
83	7-6	56	二層	盤	灰陶器				精選された粘土	良	内面：2.5TY6/2灰 外面：2.5TY6/2灰 断面：	内外面横ナメ
84	7-3	53	二層	直	土師器	17.0			精選された粘土	不良	内面：10TY6/2灰 外面：10TY6/2灰 断面：7.5TY6/4にぶい楕	内外面横ナメ
85	8-7	55	二層	直	土師器			9.9		内面：10TY6/1灰 外面：10TY6/3にぶい黄緑 断面：10TY6/1灰		
86	7-6	10	二層	杯	土師器	13.6	3.5	9.4		内面：2.5TY6/4明赤 外面：7.5TY6/4 断面：		
87	7-7	30	TR-4 二層	盞	灰生土器	22.3				内面：2.5TY7/3灰黄 外面：2.5TY7/3灰黄 断面：2.5TY7/3灰白		

表4 遺物観察表

第IV章 総括

弥生時代

土佐山田町において弥生時代中期の遺跡は数少ない。当須江地区においては県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財確認のため、全城にわたりグリット調査を実施しているが、その時の調査時に竪穴式住居跡が県道北側で発見されている。また松ノ本地区の四国電力鉄塔新設時における発掘調査においても小形の竪穴式住居跡が確認されており、周辺には新改川中位段丘面において弥生時代中期の遺跡が散在している。本調査において竪穴式住居跡が1棟確認されたことから、ある一定の集落を形成していた可能性が高い。

古代

須江上段遺跡の調査区においては調査面積の関係から、まとまった遺構は確認されていないが、多くの須恵器、土師器が出土している。出土遺物の殆どが完形品に近く、殆ど歪んだ土器は見られない。

これらの遺物は、須恵器、土師器ともに同一時期に限定される。すなわち8世紀中期から8世紀末にかけてのもので特に、土師器、須恵器など同一時期の一括資料として貴重である。須江上段遺跡周辺には須恵器窯跡や瓦窯跡が分布しており、周辺の窯跡との関係から窯跡に関する遺物であろう。このことは土佐山田町須江古窯跡群の成立を考える上で重要である。また今回の調査から土師器に関係する遺物も多く見られることから今後、土師器生産関係の遺跡とも考えられる。よって本遺跡は土佐における須恵器、土師器の上器生産体制の状況を考える貴重な資料となろう。

現在のところ新改、須江地区に所在する須江古窯跡群は7世紀から10世紀の時期であり、近隣の野市町に所在する10世紀から11世紀にかけての亀山古窯跡群、白岩古窯跡群との関連と比較検討すべき課題となる。

中世

中世に該当する遺構は確認されていない。遺物は若干みられるものの、古代と対比させると非常に少ない。また本地域は「長宗我部地検帳」にみられる集落は現在の集落と殆ど相違が無く、中世の農村集落は現集落と重複しており、遺構は現集落内に存在する可能性が高い。

附編　須江地区における古墳時代から古代にかけての様相

土佐山田町須江地区は、新改川（国分川）左岸に位置し、一部右岸に飛び地が存在する。第四紀の地形としては新改川に沿って高位段丘、中位段丘、低位段丘が明確にみられる。高位段丘は植の県道沿い東側に海拔50~60mの段丘がみられ、新改地区的山麓部にもみられる。中位段丘は町立香

長小学校から須江の集落及び右岸の久次の集落にかけてみられる。低位段丘は須江、久次の新改川旧氾濫地帯にあたり現在、低位段丘に住家はなく土地利用は農地である。⁽¹⁾

地形的には中位段丘を中心としてその周辺も含めて旧石器時代から古代にかけての遺跡の分布密度が高い地域である。特に古墳時代には須江地区北側の新改、上改田地区の山麓部を中心に後期の古墳群（新改古墳群）が形成⁽²⁾されその規模も土佐山田町指定史跡である新改横走1号古墳⁽³⁾や須江ツカアナ古墳⁽⁴⁾のように高知県内では人規模な規模を有する。

7世紀代には植、新改地区を中心に窯が築かれ、11世紀頃まで人法寺、入野地域を含めて高知県内最大の古代の窯業生産遺跡、須江古窯跡群が形成⁽⁵⁾される。当地域の窯跡群は現在までの調査では須恵器窯が多く確認されているが一部、瓦も焼成されていることが確認されている。焼成瓦の供給先は南国市比江に所在する国指定史跡である比江廃寺跡や土佐国分寺である。⁽⁶⁾

奈良時代において長岡郡に所属していたと考えられる。この新改、須江、入野、上改田、久次地域を含めて「和名類聚抄」にみえる郷の一つである土佐国長岡郡「登利郷」の推定地とされていく。従来の研究では「登利郷」の位置について土佐山田町新改説と高知市十市・三里説が論じられてきたが近年の研究成果からこの「登利郷」を従来の読み方「トカリ」に対して新たに「アカリ」と読むことが解り、両方の呼び名があったことが判明している。両方の呼び名が現在新改地区の小字にも見られることから新改説が有力となっている。またこの地名の成立要素を古代の須恵器生産に係わる「登り窯」との関係を指摘⁽⁷⁾されている。しかし律令制における郷の口分田の班給による耕地面積を一郷250町とした場合⁽⁸⁾、中世末の『長宗我部地検帳』から新改、須江、上改田、久次などの耕地面積は70町余りしかなく隣接する殖田郷（南国市植田）を含まなければ難しい。しかしながらこの地域は前述した通り古代の土佐国においては最大の窯業生産地帯であり、また操業も長期間に及び、かつ土佐国府に近接する土佐国分寺、比江廃寺跡などの瓦生産も係わっていることから土佐国府に掌握された直営の官営工房とみれば農業生産の従事より窯業生産の従事が主たるものであったと考えられる。

註

- (1) 「陶の里」香長小学校創立百周年記念誌 P10 編集 香長小学校創立百周年記念誌推進委員会 発行 香長小学校創立百周年記念事業実行委員会 1995
- (2) 「土佐山田町史」P96~108 上佐山田町教育委員会 1979
- (3) 註(2)と同じ P99~100
- (4) 「須江ツカアナ古墳」上佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第20集 土佐山田町教育委員会 2002
- (5) 註(2)と同じ P126~154
- (6) 「南国市史上巻」P442 1979
- (7) 「和名類聚抄にみられる土佐国の郷の歴史地理学的研究－長岡郡登利郷について－」朝倉慶景「土佐山田史談」第19号 土佐山田史談会 1994
- (8) 高重 進「古代・中世の耕地と村落」

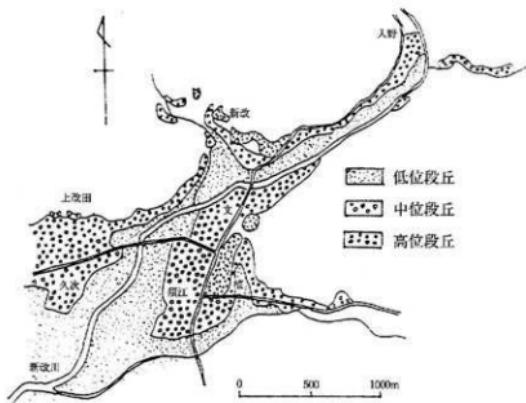


図11 土佐山田町新改地区 地形図



図12 土佐山田町新改地区 小字図

写真図版

1



I区 調査区1 遺構検出状況



I区 調査区1 遺構検出状況



I区 調査区2 遺構検出状況



I区 調査区1 遺構検出状況



I区 調査区3 遺構検出状況



I区 調査区4 遺構検出状況



I区 調査区4 遺構検出状況



I区 調査区5 遺構検出状況



I区 調査区 5 遺構検出状況



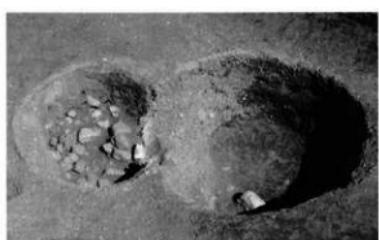
I区 調査区 6 遺構検出状況



I区 調査区 1 遺構完掘状況



I区 調査区 1 遺構完掘状況



I区 調査区 1 遺構完掘状況



I区 調査区 3 遺構完掘状況



I区 調査区 4 遺構完掘状況



I区 調査区 4 遺構完掘状況



I区 調査区4 遺構完掘状況



I区 調査区4 遺構完掘状況



I区 調査区5 遺構完掘状況



I区 調査区6 遺構完掘状況



I区 調査区6 遺構完掘状況



I区 調査区6 遺物出土状態



I区 調査区6 遺物出土状態



I区 調査区6 遺物出土状態



I区 調査区3 遺物出土状態



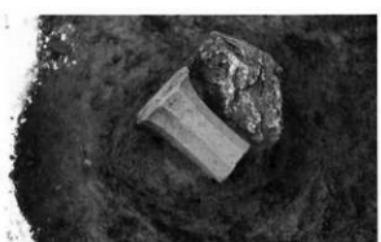
I区 調査区3 遺物出土状態



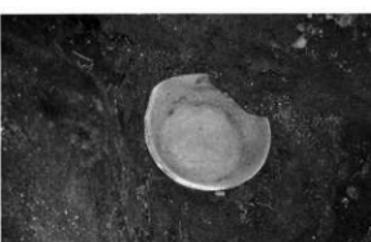
I区 調査区3 遺物出土状態



I区 調査区3 遺物出土状態



I区 調査区5 遺物出土状態



I区 調査区5 遺物出土状態



I区 調査区5 遺物出土状態



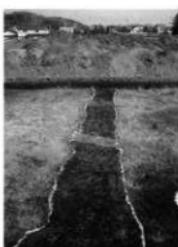
I区 調査区5 遺物出土状態



I区 調査区7 遺構検出状況



I区 調査区7 遺構検出状況 (ST-1)



I区 調査区7 遺構検出状況 (SD-1)



I区 調査区7 遺構検出状況 (SX-1)



I区 調査区7 遺構検出状況



I区 調査区7 遺構検出状況 (SB-1)



I区 調査区7 遺構実掘状況



I区 調査区7 遺構実掘状況



I区 調査区7 造構完掘状況



I区 調査区7 造構完掘状況



I区 調査区7 造構完掘状況



I区 調査区7 造構完掘状況 (SD-1・SD-2)



I区 調査区7 造構完掘状況



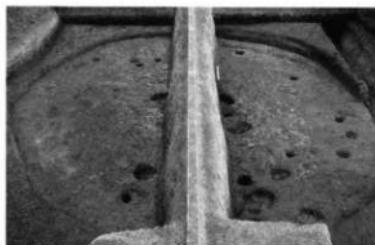
I区 調査区7 造構完掘状況



I区 調査区7 SD-2 セクション



I区 調査区7 造構完掘状況



I 区 調査区 7 遺構完掘状況 (ST-1)



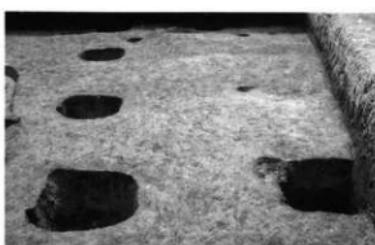
I 区 調査区 7 遺構完掘状況



I 区 調査区 7 遺構完掘状況 (SX-1・SB-1)



I 区 調査区 7 遺構完掘状況 (SB-1)



I 区 調査区 7 遺構完掘状況 (SB-1)



I 区 調査区 7 遺構完掘状況 (ピット内 石)



I 区 調査区 7 遺構完掘状況 (SX-1)



I 区 調査区 7 遺物出土状態 (SX-1)



I区 調査区7 遺物出土状態 (SX-1)



I区 調査区7 遺物出土状態 (ST-1)



I区 調査区7 遺物出土状態 (ST-1)



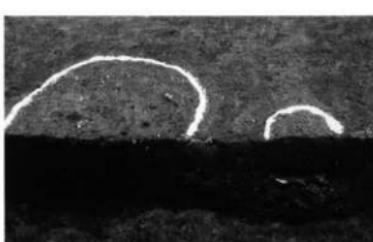
I区 調査区7 遺物出土状態 (ST-1)



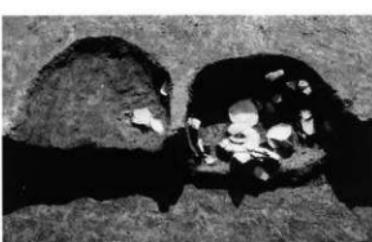
I区 調査区7 遺物出土状態 (ST-1)



I区 調査区7 遺物出土状態 (ST-1)



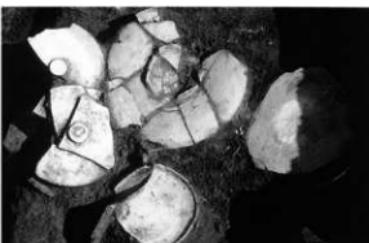
II区 調査区1 遺構検出状況



II区 調査区1 遺物出土状態



II区 調査区1 遺物出土状態



II区 調査区1 遺物出土状態



II区 調査区1 遺物出土状態



II区 調査区1 遺物出土状態



II区 調査区1 遺物出土状態



II区 調査区1 遺物出土状態



II区 調査区1 遺構完掘状況



II区 調査区1 遺構完掘状況



II区 調査区1 造構完掘状況



II区 調査区1 造構検出状況



II区 調査区2 造構完掘状況



II区 調査区2 造構検出状況



II区 調査区5 造構検出状況



II区 調査区4 造構検出状況



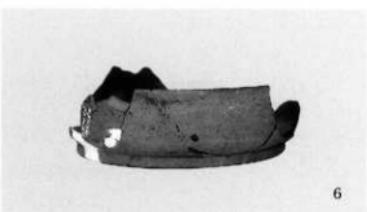
II区 調査区3 造構完掘状況



II区 調査区3 造構検出状況



1



6



2



7



3



8



4



9



5



10



11



16



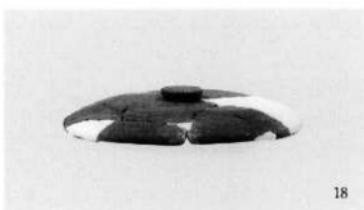
12



17



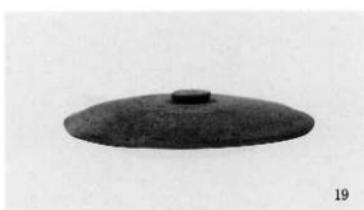
13



18



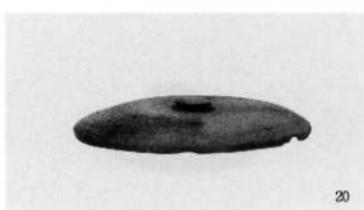
14



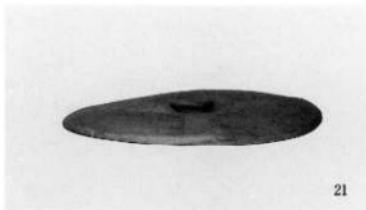
19



15



20



21



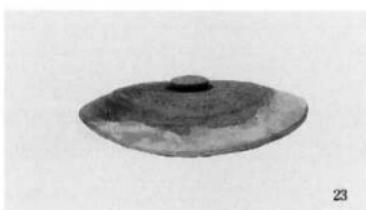
26



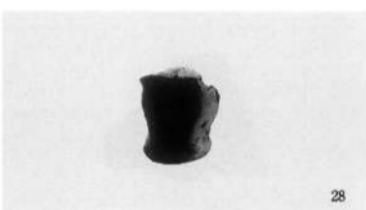
22



27



23



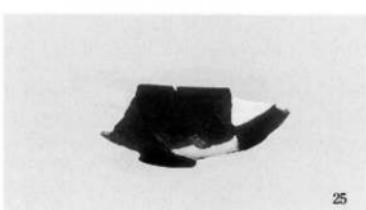
28



24



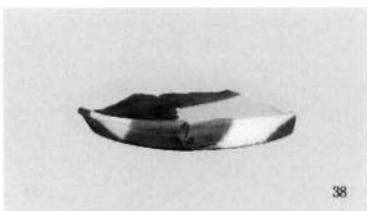
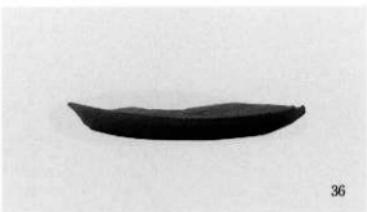
29

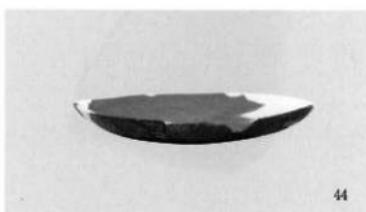
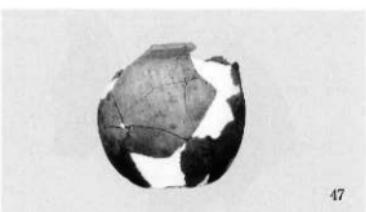
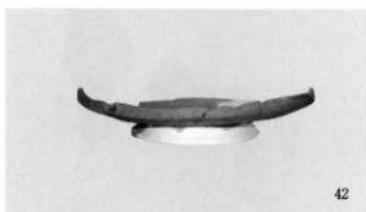
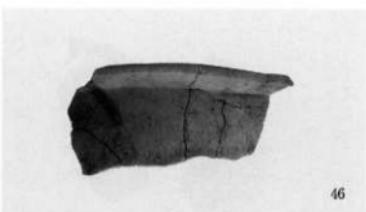


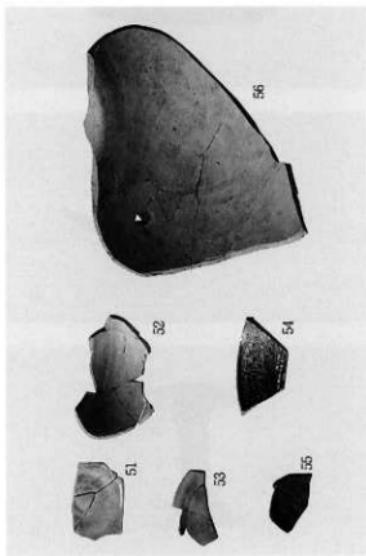
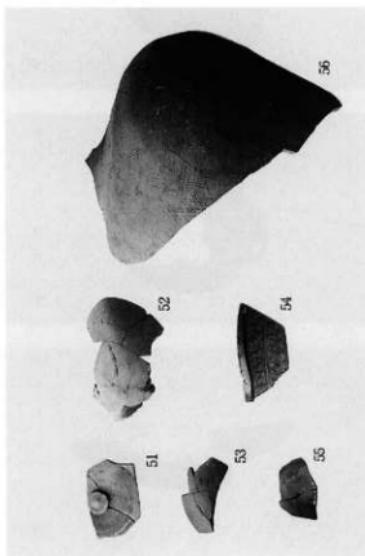
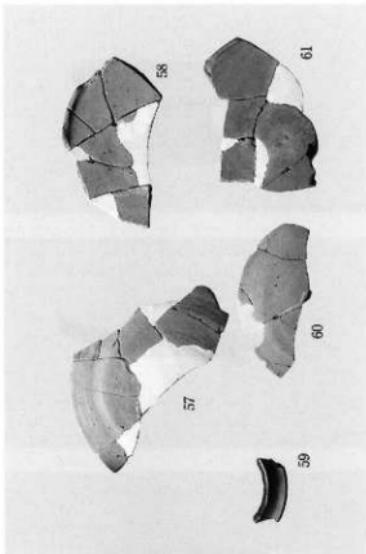
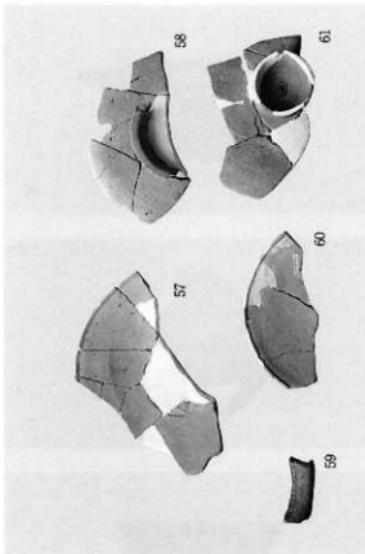
25

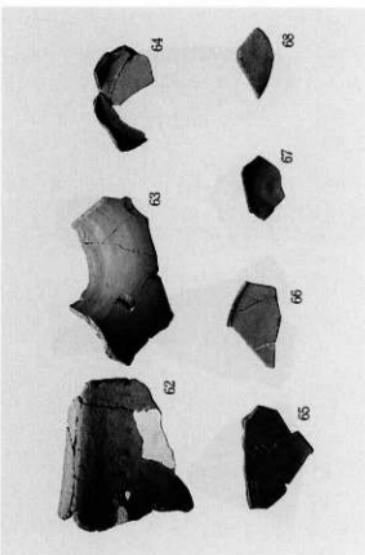
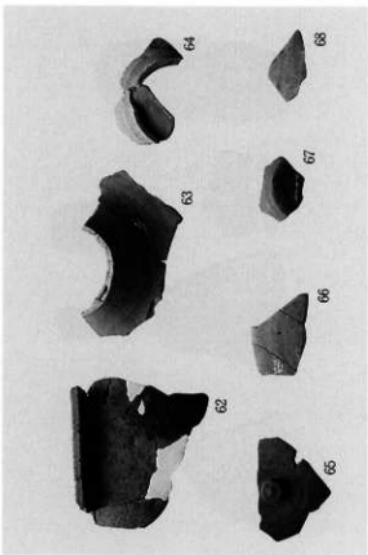
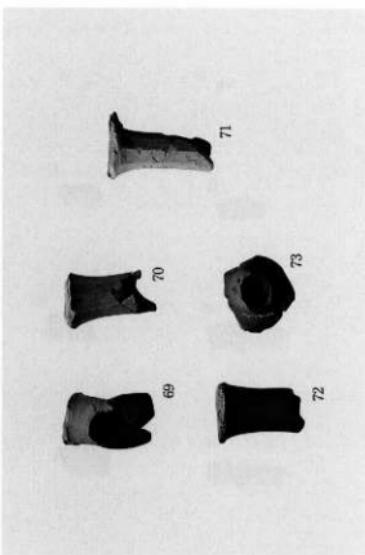
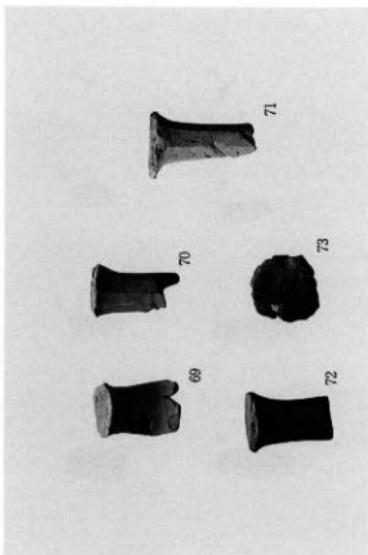


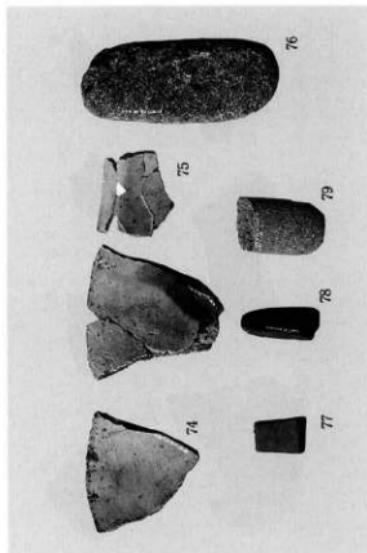
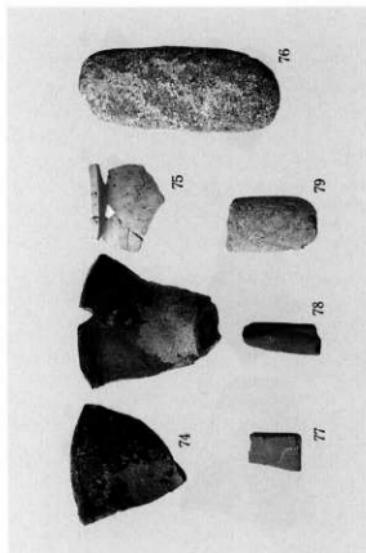
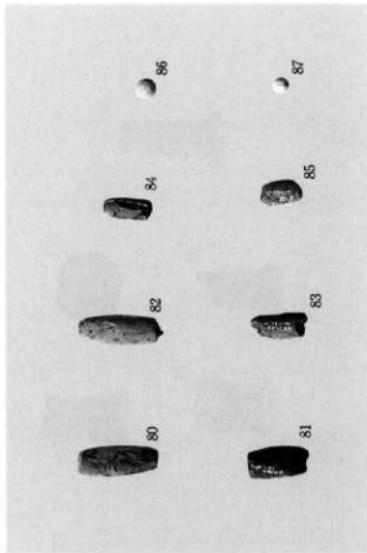
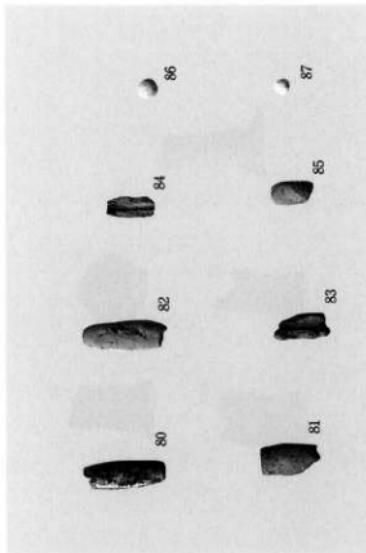
30











報告書抄録

ふりがな 書名	すえじょうだんいせきまつのもとちく 須江上段遺跡松ノ本地区						
副書名	山田北部地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名	土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号	第23集						
編著者名	中山泰弘						
編集機関	土佐山田町教育委員会						
所在地	〒782-0017 高知県香美郡土佐山田町岩崎365-1						
発行年月日	平成16年7月30日						
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 ° ° °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
すえじょうだんいせき 須江上段遺跡 まつのもとちく 松の本地区	こうちけん 高知県 かちくん 香美郡 かみぐん 土佐山田町 とさやまとちょう 須江 すぢ あまつのもと 字松ノ本	393231	190072	33° 37'	133° 40' 3 1995.12.1 1996.3.29	1,800m ²	県営山田北部 地区圃場整備 事業に伴う発 掘調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
須江上段遺跡	集落	弥生 ↓ 近世	柱穴・溝跡・ 土坑・竪穴住 居跡	弥生土器、須恵 器、土師器、土 師質土器、青磁、 備前焼、石器			

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第23集

須江上段遺跡松ノ本地区

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成16年7月30日

編集・発行 土佐山田町教育委員会

高知県香美郡土佐山田町岩積365-1

TEL 0887-53-3111(代)

印刷 有限会社西村謹写堂

